

日本オブティミストディング協会 2019 年 年次総会 議事録

日時：2019年11月23日（土） 18時～20時

場所：平川ヨットハーバー 2階会議室

出席役員：濱本理事長、松尾副理事長、高山副理事長、青野理事、荒川理事、飯島理事、岡田理事、菅澤理事、中村理事、西村理事、本多理事、山田理事、秋山監事、檜皮監事

- 1) 開会の辞 濱本理事長
- 2) 議長選出 浅野会長欠席の為、濱本理事長が代行
- 3) 出席状況報告

開会に先立ち高山副理事長より評議員総数 48 名に対し、委任状含み出席評議員数 39 名で OP 協会規約（第 21 条 - 1、総会の定足数及び議決方法）を満たしており、本総会が成立することが報告された。

- 4) 議事録署名人 東水域：武田崇宏評議員、西水域：尾道輝寿評議員を選出した。

第 1 号議案 2019 年事業報告、及び、第 2 号議案 決算報告

高山副理事長より資料に沿って報告した。要点を以下に記す。

① 強化海外派遣委員会

- ・海外派遣 ワールド 5 名（アンティグア）、アジア・オセアニア 10 名（オマーン）、ヨーロッパ 4 名（フランス）、北米 6 名（バハマ）を選出し派遣した。
- ・NT 合宿 4 月 愛知県海陽で開催

② レース委員会

- ・全日本大会 11 月 神奈川県江の島で開催
- ・ナショナルチーム選考会 3 月 福岡県小戸で開催
- ・東日本選手権 8 月 静岡県浜名湖で開催
- ・西日本選手権 8 月 広島県観音マリーナで開催
- ・チームレース 9 月 広島県観音マリーナで開催
- ・全日本大会枠 46 枠計 230,000 円の収入
- ・選考会開催地公募結果 愛知県蒲郡から応募あり、理事会にて決定
- ・第 52 回全日本開催地公募結果 9 月までに応募なしであったが、江の島（時期：2020 年 11 月）から応募を頂き理事会にて決定

③ テクニカル委員会

- ・クラスルール改定 艀装品の小変更 1 点あり
- ・レース艇新規登録 6 艇（去年は 20 艇）
- ・計測セミナー 開催希望のオファーなく未開催
- ・IODA 大会派遣 ヨーロッパ選手権に運営役員として 1 名派遣
- ・ライフジャケット基準 JSAF の基準を OP クラスでも準用

④ 普及育成委員会

- ・紹介チラシ JSAF と連携し OP 紹介チラシを作成。ボートショー始め各所に配布
- ・バハマ支援 ハリケーン被害に対し、中古セール、新品メインメール12式寄贈
- ・その他活動 沖縄座間味での普及活動。将来的に JODA 大会の模索

⑤ 総務委員会

- ・会議開催 総会、理事会3回を開催
- ・文書発行 イヤーブック、後援、大会派遣依頼文書などを発行
- ・会員登録 46クラブ、322選手、166オペスタ
- ・広報 ホームページ、フェイスブックの更新運営
- ・国際連携 IODA、他国協会との連絡

⑥ 会計決算報告

- ・収支、資産 収入、支出の概要報告、貸借対照表の報告

第3号議案 監査報告

監事より、監査の結果、公正かつ適正であることが報告された。

第1～第3号議案に関して、出席者一同の拍手を持って承認された。

第4号議案 2020年事業計画案、及び、第5号議案 2019年予算案

松尾副理事長より資料に沿って報告した。要点を以下に記す。

① 強化海外派遣委員会

- ・IODA 世界選手権 イタリア 2020年7月1日-11日予定
- ・IODA アジアオセアニア選手権 スリランカ 2020年6月6日-13日予定
- ・IODA ヨーロッパ選手権 エストニア 2020年6月22日-29日予定
- ・ナショナルチーム合宿 海陽 2020年5月2日-4日予定

② レース委員会

- ・全日本選手権 鹿児島 開催中
- ・NT 選考会 蒲郡 2020年2月21日～25日予定
- ・東日本選手権 浜名湖 2020年7月または8月を予定 (2019年内に決定しお知らせする)
- ・西日本選手権 福岡 2020年8月21日～23日予定
- ・チームレース 広島 2020年9月19日～21日予定
- ・全日本出場枠申請 協賛金一枠5000円で最大2枠を予定
- ・選考会公募 2020年1月公示、3月締切予定
- ・全日本公募 2020年6月公示、9月締切予定

③ テクニカル委員会

- ・ルール改定 クラスルール改定の英文和訳予定
- ・登録艇管理 新規/変更登録、計測

- ・計測員養成 計測セミナー10月26-27日鹿児島にて開催
- ・海外派遣 IODA 国際大会に計測員を派遣予定

④ 普及育成委員会

- ・普及ツール JSAF と連携しチラシ作成ほか JODA 加盟クラブが活用できるツールを提供予定
- ・意見交換 選手、保護者との意見交換の機会を増やす予定
- ・普及広報 ホームページ、SNS 活用
- ・育成強化 チームレースの楽しみ方
- ・他団体連携 JODA 未加盟団体との連携

⑤ 総務委員会

- ・事務局 会員登録、事務処理、会議開催、情報発信
- ・財務 会計処理、協賛/助成金確保、会費改定検討
- ・予算案 収入/支出¥13,310,200 を計画

第4～第5号議案に関して、出席者一同の拍手を持って承認された。

第6号議案 その他

① 松尾副理事長より全日本選手権のレースフォーマット変更について資料に沿って報告した。

【質疑応答】

ご意見1 (池田(委任)評議員) : ゴールドフリート 80 艇、シルバーフリート 60 艇とするとフリートごとにスタートラインを調節しなければならない運営上の手間があると思う。各フリートを同数にしなかった理由は何か？

JODA 回答 (松尾副理事長) : 1回のスタートでコントロールできる艇数の最大数は 80 艇と考えている。できる限りゴールドフリートを増やすべきと考えた。

ご意見2 (宮本(委任)評議員) : レース本数を稼ぐため、計測の時間を短縮できると考える。東西大会で事前に計測を受け、再度全日本で計測を行っている。全日本では 2 回目の計測となるので簡素化できるのではないか？

JODA 回答 (荒川理事) : 東西大会での計測のクオリティと全日本とでは異なると認識している。現状では各大会は独立している。過去の計測結果を引き継ぐ考えは今のところない。また、簡易計測としてしまうと計測の技術の伝承ができなくなってしまう。クラスルールがあつてのクラス協会なのでフル計測の場は残すべきとの考え。その場として全日本がふさわしいと考えている。

ご意見3 (酒井評議員) : 新しい全日本フォーマットでのゴールドとシルバーでの参加料は同じであるか？大会としてはゴールドに集中しているように感じられ、シルバーはお客さんとして扱われるように感じた。昔ながらの 4 日間、ゴールドとシルバーの区別ない大会の方が、クラブの指導者としては選手のモチベーションを上げやすいと感じる。

JODA 回答 (松尾副理事長) : 参加料を分けることは考えていない。シルバーフリートを阻害するような感じは出したいくないと考えている。

JODA 回答 (濱本理事長) : 現在の浅野会長に就任頂いてから全日本は変わったと認識している。会長の発案によりワールド大会のようなパーティーを実施し、皆で交流するため毎年多大な協賛をいただいている。従って、シルバーも含めた全日本と考えている。また、シルバーフリートにはワイルドカード(案 4.ル

ル 4) C)参照)を設定しており、これを選手への新たなモチベーションとしてとらえていただきたい。

ご意見 4 (山口評議員) : クラブのシルバーの選手に頑張るように伝えたい。

ご意見 5 (須田 (委任) 評議員) : シルバーフリートに対するワイルドカード・ルールは良い考えと思う。クラブで支援艇が 1 艇の場合、今年の場合、クラブ内の選手でレベル差がある場合、海上のコンディションにより、クラブ内でレベル下位の選手にリタイア等の説明をする必要がある。「ルールによりシルバーフリートは出艇しない」という事であれば、選手も納得しやすく、選手のモチベーションアップにつながると思う。

ご意見 5 (青山評議員) : 東西大会でも「選考」、全日本でも「選考」、最後に NT 選考会と続くが、この仕組みが世界で戦える選手を育てるとは必ずしも言い切れないのではと思う。例えば、東日本大会で出場枠を取れなかった選手が、クラブ枠で全日本大会に出場し、選考会へ通る選手もいる。ジュニアの選手の成長、技術の発達は早く、最初から分ける必要があるのか? と疑問である。

JODA 回答 (濱本理事長) : 以前会員数が 700 名を越えていた時代、全日本選手権とは別に、全日本オープンという大会があった。オープンはだれでも出られる大会であった。つまり全日本大会を年に 2 回実施していた。会員数減、協会の資金不足などの理由によりオープン大会をやめざるを得なくなった。来年以降、この二つの大会を一緒に行う方向性で今回の案を作成している。まだまだ、様々なご意見がありますが、我々理事の方で内容を詰めていきます。来年に向けてより良い形で全日本大会を開催できるよう考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

② 濱本理事長よりプラスチックゴミ回収事業について資料に沿って報告した。

第 6 号議案に関して、出席者一同の拍手を持って承認された。

第 7 号議案 役員の変更について

五嶋選挙管理委員長 (鹿児島ジュニアヨットクラブ) より、資料に沿って報告いただいた。

- ・任期満了役員 理事 8 名、監事 1 名
- ・立候補結果 理事立候補 8 名、監事立候補 1 名
- ・立候補基準 立候補全員が条件を満たしている。

高山副理事長より立候補者の経歴について紹介された。

議長より立候補者数が改選定数内であるため、規約に沿って投票によらない出席者の賛同による承認方法が提案されて了承された。

ご意見 1 (榊原評議員) : OP 協会の規約 細則 (選挙) 第 14 条に「クラブに所属しない場合は居住地の水域」を届けなければならない、とある。今回配付された総会資料の中で、村松さまの水域が明示されていないので教えていただきたい。

JODA 回答 (高山副理事長) : 東日本水域です。

第 7 号議案に関して、出席者一同の拍手を持って、役員立候補者全員が承認された。

第 8 号議案 会長・副会長の改選について

高山副理事長から、浅野会長、占部副会長の任期満了及び再任が付議された。

第8号議案に関して、出席者一同の拍手を持って、会長・副会長の改選が承認された。

退任役員の荒川理事、岡田理事からご挨拶いただいた。

新任役員の村松理事からご挨拶いただいた。

【質問状について】

C1：財務報告：西日本大会について予算、実績ともに計上がありません。大会は開催されたとのことですので、なぜ運営経費計上がないのでしょうか？

JODA 回答（飯島理事）：今年の東日本大会、西日本大会では使用した口座が異なっておりました。次年度からは報告いたします。

C2：普及・育成委員会の活動：作成したパンフレットを各クラブへ配付いただけるとありがたい。

JODA 回答（西村理事）：昨年総会時に、各クラブに配布しております。まだ在庫はあると思われるので、必要であれば確認し再度配付は可能です。

C3：監査報告：協会会則では役員の業務監査も求められている。その点についても報告することを検討してはどうか？

JODA 回答（檜皮監事）：監査報告書としては、会計監査のみの記載となっているが、監事として各理事会には常時出席し、業務の執行についても話を聞いている。各理事の業務について適正に把握するように努めている。大会に関してだけでなく日頃からメール等で打合せを行っている。各評議員に置かれましても理事に協力し共に OP 協会を盛り上げていってもらえればと思います。

C4：運営役員選任：個人情報であっても、理事候補の経歴は協会 HP で公開すべきではないか？加えて各評議員には個人情報保護に関する新たなルールを適用するよう会則の変更を考えても良いのではないか？

JODA 回答（高山副理事長）：評議員が欠席となった場合、委任者がいますのでそこからお伝えいただけるとと思います。欠席者に対し決して公開していないという事には当たらないと思います。協会 HP に個人情報を掲載することは世間一般に行わない方向性があるので、今回の方法の継続が望ましいと考えています。

休憩をはさみ、第一回理事会が開かれ、新理事長及び会計担当理事が以下に決定し、総会で報告された。

理事長 濱本 徹夫

会計担当理事 飯島 真理

濱本理事長による閉会の辞を以て、2019年日本 OP 協会年次総会は閉会した。

議事録作成日： 2019年12月08日

作成者： 菅澤理事、本多理事

議事録署名人： 武田 崇宏 氏（江ノ島ヨットクラブジュニア評議員）

尾道 輝寿 氏（B&G 時津海洋クラブ評議員）

以上